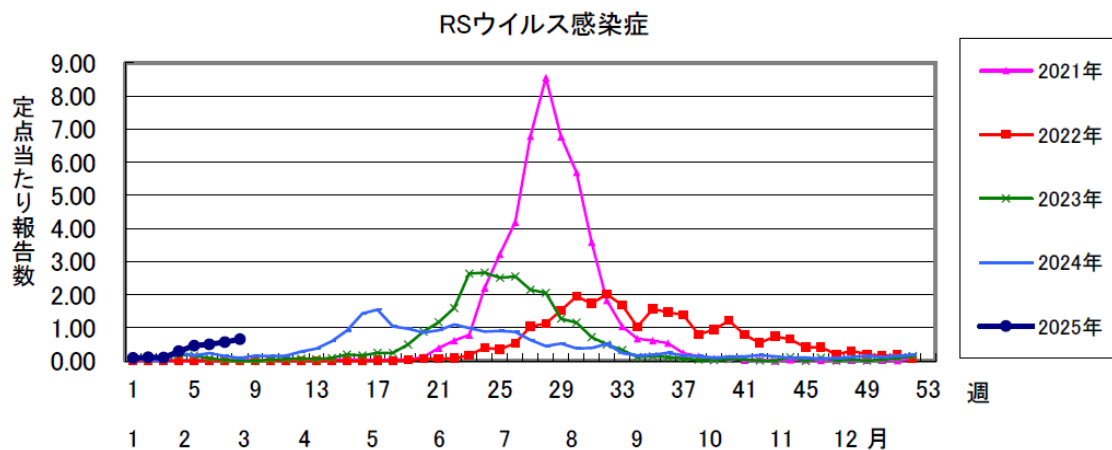


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ/ニルセビマブ投与について (2025年および2026年 第2報)

千葉県内と近隣都県のRSウイルス(RSV)感染症流行状況を考慮して、「千葉県RSV感染症予防・対策検討ワーキンググループ」は、RSVの最近の流行状況を勘案し、パリビズマブ/ニルセビマブ投与について以下を提案する。

1. 2025年2月25日時点において、全国的にRSV流行が認められはじめている。
(<https://www3.nhk.or.jp/news/special/infection/dashboard/rs-virus.html>)。
2. 千葉県全体のRSV感染症の定点当たり報告数は5週連続で増加し、0.66となっている。患者報告のあった保健所数は16保健所中14か所で、定点当たり1.0以上の保健所は4か所、海匝(3.00)、船橋市(1.64)、長生(1.50)、柏市(1.25)であり、RSV感染症による入院例も認められている。
3. 近隣都県(一都二県と茨城県)においても患者数の増加が認められている。
4. 千葉県においては、2025年1月以降、通年性流行地域として1年を通してパリビズマブ/ニルセビマブの投与を可能としている。上記の状況を考慮し、まだ投与を開始していない場合には、すみやかに投与を開始することを提案する。
5. ニルセビマブに関しては1シーズン1回の投与でRSV感染症予防が可能である。
6. パリビズマブに関しては、適応病名に関わらず、1シーズン7回を目安に投与する。ただし、流行状況と個々の対象児のリスク等を勘案して、投与回数を柔軟に設定する。
7. 肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症、神経筋疾患を有する24か月齢以下の小児に関しては、パリビズマブのみが保険適用となる
8. 母体がRSVワクチン既接種の場合でも、重篤なRSV感染症の発症リスクを有する新生児・乳児(ニルセビマブやパリビズマブの適応症の10疾患を有する児)はニルセビマブないしはパリビズマブの投与を行う。



2025年2月26日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県RSV感染症予防・対策検討ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 大森俊 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦

戸石悟司 西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直 吉田未識